

感染症研究開発E L S Iプログラム  
令和2年度事後評価について

令和4年1月25日

感染症研究開発E L S Iプログラム課題評価委員会

## － 目 次 －

### 1. プログラムと事後評価の概要

### 2. 令和2年度事後評価結果

2-1：感染症の研究開発に資する倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する調査（2課題）

2-2：感染症流行時の適切な情報発信に資するリスクコミュニケーションに関する調査（2課題）

参考資料：感染症研究開発ELSIプログラム

<https://www.amed.go.jp/program/list/14/01/007.html>

## 1. プログラムと事後評価の概要

本プログラムは、COVID-19 といった新興感染症をめぐる社会の動きがリアルタイムであるなか、①感染症の研究開発に資する倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する調査、②感染症流行時の適切な情報発信に資するリスクコミュニケーションに関する調査を実施するため立ち上げられた。①の調査を通じては、感染症の医療研究開発を今後推進していく上で重点的に対応すべき ELSI を抽出することが可能となり、②の調査を通じては、今後の感染症流行時の医療研究開発に係る適切な情報発信のために必要な専門的知識や技術を成果として見込むことができると考えられる。

感染症研究開発 ELSI プログラムでは、本研究プログラムにおける事後評価の評価項目に沿って、評価対象研究課題別に書面審査と面接審査による事後評価を実施した。

## 2. 事後評価対象課題

課題名	代表者	所属	役職
<b>(1) 感染症の研究開発に資する倫理的・法的・社会的課題 (ELSI) に関する調査</b>			
COVID-19 重症呼吸不全における ECMO 再配分に対する市民・社会の理解に関する実態調査	吉田 雅幸	東京医科歯科大学	教授
新興感染症流行時の未承認薬利用と研究開発に対する市民の態度に関する研究	中田 はる佳	国立がん研究センター	室長
<b>(2) 感染症流行時の適切な情報発信に資するリスクコミュニケーションに関する調査</b>			
不適切なリスクコミュニケーションの析出に基づく適切なリスクコミュニケーションの探究：SNS 事例分析と質問紙調査	三浦 麻子	大阪大学	教授
「新しい生活様式」の具現化に向けたコミュニケーション・デザイン調査研究	西井 正造	横浜市立大学	助教

### 3. 事後評価委員会

令和4年1月25日

課題評価委員一覧表 PDF

### 4. 評価項目

評価項目は、次のとおり。

- ① プログラム趣旨等との整合性
- ② 計画の妥当性
- ③ 意義および優位性
- ④ 実施体制
- ⑤ 所要経費
- ⑥ プログラムで定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑦ 総合評価

各課題は事後評価にあたって提出された報告書の「実施課題の進捗状況」、「成果」、「実施体制」、「今後の見通し」、「総合的に勘案すべき項目」の5項目から、書面評価及び必要に応じてのヒアリング評価を行ない、さらにそれらを勘案した総合評価を行った。

感染症研究開発 ELSI プログラム課題評価委員会により令和3年度に事後評価を実施した4課題（感染症の研究開発に資する倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する調査2課題／感染症流行時の適切な情報発信に資するリスクコミュニケーションに関する調査2課題）の事後評価結果を、評価の概要と共にここに報告する。

## 2. 令和2年度事後評価結果

以下に、委員会として確定した各課題の評価結果とその概要を下記に記載する。

### 2-1：感染症の研究開発に資する倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する調査 （2課題）

#### 吉田課題

#### COVID-19 重症呼吸不全における ECMO 再配分に対する市民・社会の理解に関する実態調査

COVID-19 における ECMO の活用をめぐり、患者・患者家族および医療従事者ともに非常に困難な状況下で向き合う必要のある重要課題について正面から取り組んだ大変意義深い研究である。特に、医療従事者と市民・社会の双方の潜在的な意識や認知を具体的に明らかにした独自性の高い研究として評価される。今後、得られた知見とベストプラクティス等のとりまとめが、重症呼吸不全の診療に関わる医療機関ならびに医療者、そして市民に向けて、効果的に発信・共有され、限られた公共財としての医療の適切な運用をめぐり社会的議論の活性化へつながることが期待される。

#### 中田課題

#### 新興感染症流行時の未承認薬利用と研究開発に対する市民の態度に関する研究

新興感染症流行時の未承認薬利用と研究開発について、堅実かつ遺漏のない調査手法により、潜在的な市民・社会意識を非常に具体性をともない明らかにした研究であり、高く評価される。特に、パンデミック発生初期から医薬品開発における課題を的確に捉え、ワクチン拒否問題を直接市民に問いかけたこと等、現在進行形かつ汎用的テーマについて独自性の高い知見が創出されている。エビデンスに基づく政策形成の基盤として、また、患者・市民参画（PPI）の取組を通じて、社会還元も期待される。今後、国際比較の視点を効果的に採り入れると、より俯瞰的かつ相対的な観点を備えた研究としてさらに発展すると考えられる。

### 2-2：感染症流行時の適切な情報発信に資するリスクコミュニケーションに関する調査 （2課題）

#### 三浦課題

#### 不適切なリスクコミュニケーションの析出に基づく適切なリスクコミュニケーションの探究：SNS 事例分析と質問紙調査

複数の調査方法を用いて、社会の様々な階層の人々の COVID-19 による内面的影響と行動

を捉えることができおり、高く評価される。特に、顕在化し難い傾向のある高齢者に関するデータは、独自性の高いものと評価される。人工知能を用いた SNS における不適切なコミュニケーションの因子分析は、様々なリスクコミュニケーションの在り方の考究の基盤となり、社会還元やアウトリーチも重視されている。今後、医療提供側の情報環境の特徴や構造への深い理解が含まれた考察を行うことで、より意義深い研究へと発展すると考えられる。

#### **西井課題**

##### **「新しい生活様式」の具現化に向けたコミュニケーション・デザイン調査研究**

研究者らがこれまで構築してきた Street Medical という概念はじめ、公共財である医療を、専門家だけに委ねず、社会で共有していく国際的潮流とも沿っており、評価される。短期間の中に、アプリ開発等に加えて、多様な実践活動と、調査分析にも積極的に取り組まれていることも評価される。今後、これらの取り組みを批判的に捉え直し、日々アップデートされる医学的知見への対応、医療倫理の専門家等との連携、媒体の普及戦略、公共財としての医療の価値のみならず責任の共有等、複眼的に考察を広げつつ、科学的手法をより重視した知見の創出へつなげていくことが期待される。